

# 臨床医学系

## 内科学講座

### 膠原病・リウマチ内科

#### 著書

- 1 長澤浩平：シェーグレン症候群。今日の治療指針 624-625, 医学書院・東京 2008.
- 2 長澤浩平：自己管理。やさしいシェーグレン症候群の自己管理 98-101, 医薬ジャーナル社・大阪 2008.

#### 原著論文

- 1 °青木洋介, 永田正喜, 福岡麻美, 長澤浩平：院内感染対策からみた特殊病態患者の管理 2. 血管内カテーテル留置例。日本内科学会雑誌 97：2730-2736, 2008.
- 2 °Hayashi S, Tanaka M, Kobayashi H, Nakazono T, Satoh T, Fukuno Y, Aragane N, Tada Y, Koarada S, Ohta A, Nagasawa K.: High-resolution computed tomography characterization of interstitial lung diseases in polymyositis/dermatomyositis. J Rheumatol 35: 260-269, 2008.
- 3 Kikuchi Y, Koarada S, Nakamura S, Yonemitsu N, Tada Y, Haruta Y, Morito F, Ohta A, Miyake K, Horiuchi T, Nagasawa K.: Increase of RP105-lacking activated B cells in the peripheral blood and salivary glands in patients with Sjogren's syndrome. Clin Exp Rheumatol 26: 5-12, 2008.
- 4 \*野澤伸禎, 堀内孝彦, 塚本 浩, 三苦弘喜, 原島伸一, 真弓文仁, 陣内重三, 長澤浩平, 吉澤 滋, 下田照文：ステロイド単独投与で長期にコントロール可能であった全身性エリテマトーデスに合併した肺高血圧症の一例。臨床と研究 85：878-882, 2008.
- 5 Tada Y, Koarada S, Morito F, Mitamura M, Inoue H, Suematsu R, Ohta A, Miyake K, Nagasawa K.: Toll-like receptor homolog RP105 modulates the antigen-presenting cell function and regulates the development of collagen-induced arthritis. Arthritis Res Ther 10: R121, 2008.
- 6 Tada Y, Fukuoka M, Mitamura M, Koarada S, Suematsu R, Inoue H, Ohta A, Nagasawa K.: Nocardiosis in adult-onset Still's disease and vasculitis syndrome. Am J Med Sci 336: 77-80, 2008.
- 7 \*Tamimoto Y, Horiuchi T, Tsukamoto H, Otsuka J, Mitoma H, Kimoto Y, Nakashima H, Muta K, Abe Y, Kiyohara C, Ueda A, Nagasawa K, Yoshizawa S, Shimoda T, Harada M.: A dose-escalation study of rituximab for treatment of systemic lupus erythematosus and Evans' syndrome: immunological analysis of B cells, T cells and cytokines. Rheumatology 47: 821-827, 2008.
- 8 多良明子, 多田芳史, 三田村未央, 小荒田秀一, 井上久子, 長澤浩平, 大田明英, 鐘江 大：不明熱で発症した特発性間質性腎炎の1例。九州リウマチ 2：135-139, 2008.
- 9 °Yamaguchi K, Iwakiri R, Hara M, Kikkawa A, Fujise T, Ootani H, Shimoda R, Tsunada S, Sakata H, Ushiyama O, Koarada S, Tada Y, Nagasawa K, Fujimoto K.: Reflux esophagitis

and helicobacter pylori infection in patients with scleroderma. *Inter Med* 47: 1555-1559, 2008.

## 総 説

- 1 小荒田秀一, 長澤浩平: TNF 阻害薬とメモリーB細胞機能. *リウマチ科* 40: 190-195, 2008.
- 2 長澤浩平: 成人ステイル病. *からだの科学* 256: 67-71, 2008.
- 3 長澤浩平: 成人ステイル病による関節症状. *Ortho Community* 27: 7-8, 2008.
- 4 長澤浩平: ワクチンへの関心を. *化学療法の領域* 24: 1435, 2008.
- 5 °シェリフ多田野亮子, 長澤浩平: HGF の抗線維化作用. *リウマチ科* 39: 343-351, 2008.
- 6 多田芳史, 末松梨絵, 長澤浩平: Remitting seronegative symmetrical synovitis with pitting edema (RS3PE) 症候群. *内科* 102: 372-375, 2008.
- 7 \*牛山 理, 長澤浩平: 膠原病を追い詰める特徴的な全身所見. *Medicina* 45: 52-55, 2008.

## 学会発表

### 国際規模の学会

- 1 Tada Y, Koarada S, Ohta A, Nagasawa K.: Toll-like receptor homolog RP105 attenuates the development of collagen-induced arthritis. *American College of Rheumatology Scientific Meeting* (米国リウマチ学会議). 2008, 10, 24-29.

### 全国規模の学会

- 1 °福岡麻美, 永田正喜, 青木洋介, 長澤浩平, 永沢善三, 草場耕二, 中島由佳理: 佐賀大学附属病院における *Clostridium difficile* 関連疾患の現状と臨床的検討. 第82回日本感染症学会総会. 2008, 4, 17-18. 第82回日本感染症学会総会学術講演抄録集 189.
- 2 井上久子, 末松梨絵, 三田村未央, 小荒田秀一, 多田芳史, 大田明英, 長澤浩平: 抗セントロメア抗体陽性シェーグレン症候群についての検討. 第52回日本リウマチ学会総会・学術集会 第17回国際リウマチシンポジウム. 2008, 4, 20-23. 第52回日本リウマチ学会総会・学術集会 第17回国際リウマチシンポジウムプログラム・抄録集 282.
- 3 井上久子, 多田芳史, 小荒田秀一, 三田村未央, 末松梨絵, 大田明英, 長澤浩平: 抗セントロメア抗体陽性シェーグレン症候群についての検討~抗 SS-A 抗体陽性群と陰性群の比較. 第17回日本シェーグレン症候群研究会. 2008, 9, 19-20. 第17回日本シェーグレン症候群研究会プログラム抄録集 89.
- 4 小荒田秀一, 菊池裕治, 多田芳史, 中村誠司, 米満伸久, 春田善男, 末松梨絵, 三田村未央, 井上久子, 大田明英, 堀内孝彦, 長澤浩平: シェーグレン症候群における末梢血および唾液腺組織における RP105 陰性B細胞の解析. 第17回日本シェーグレン症候群研究会. 2008, 9, 19-20. 第17回日本シェーグレン症候群研究会プログラム抄録集 72.
- 5 小荒田秀一, 多田芳史, 末松梨絵, 三田村未央, 井上久子, 大田明英, 長澤浩平: 関節リウマチにおける CD4+T 細胞のサイトカイン産生能と治療反応性予測. 第52回日本リウマチ学会総会・学術集会 第17回国際リウマチシンポジウム. 2008, 4, 20-23. 第52回日本リウマチ学会総会・学術集会 第17回国際リウマチシンポジウムプログラム・抄録集 503.
- 6 小荒田秀一, 多田芳史, 末松梨絵, 井上久子, 三田村未央, 大田明英, 長澤浩平: 全身性エリテマトーデス (SLE) における自己抗体産生 RP105 陰性B細胞のフェノタイプ解析. 第36回日本臨床免疫学会総会. 2008, 10, 17-18. *日本臨床免疫学会誌* 31: 302.
- 7 小荒田秀一, 多田芳史, 末松梨絵, 三田村未央, 井上久子, 大田明英, 長澤浩平: 全身性エリテマ

- トーデス (SLE) における自己抗体産生 RP105 陰性B細胞の臨床的意義. 第105回日本内科学会総会. 2008, 4, 11-13. 日本内科学会雑誌 97: 216.
- 8 松浦江美, 大田明英, 末松梨絵, 三田村未央, 井上久子, 小荒田秀一, 多田芳史, 長澤浩平: 強皮症患者におけるストレス適応についての基礎的研究. 第52回日本リウマチ学会総会・学術集会 第17回国際リウマチシンポジウム. 2008, 4, 20-23. 第52回日本リウマチ学会総会・学術集会 第17回国際リウマチシンポジウムプログラム・抄録集 407.
  - 9 三田村未央, 末松梨絵, 井上久子, 小荒田秀一, 多田芳史, 大田明英, 鐘江 大, 長澤浩平: 成人スチル病患者におけるガリウムシンチグラフィー所見の検討. 第52回日本リウマチ学会総会・学術集会 第17回国際リウマチシンポジウム. 2008, 4, 20-23. 第52回日本リウマチ学会総会・学術集会 第17回国際リウマチシンポジウムプログラム・抄録集 421.
  - 10 °永田正喜, 福岡麻美, 青木洋介, 長澤浩平: MRSA 肺炎の診断とその臨床像についての検討. 第82回日本感染症学会総会. 2008, 4, 17-18. 第82回日本感染症学会総会学術講演抄録集 313.
  - 11 末松梨絵, 多田芳史, 三田村未央, 井上久子, 小荒田秀一, 大田明英, 長澤浩平: サイトメガロウイルス (CMV) 抗原血症を呈した膠原病患者の臨床的検討. 第52回日本リウマチ学会総会・学術集会 第17回国際リウマチシンポジウム. 2008, 4, 20-23. 第52回日本リウマチ学会総会・学術集会 第17回国際リウマチシンポジウムプログラム・抄録集 329.
  - 12 多田芳史, 末松梨絵, 三田村未央, 井上久子, 小荒田秀一, 大田明英, 長澤浩平: セロトニン受容体拮抗剤塩酸サルポグレラートのレイノー現象および血小板活性化に対する効果. 第52回日本リウマチ学会総会・学術集会 第17回国際リウマチシンポジウム. 2008, 4, 20-23. 第52回日本リウマチ学会総会・学術集会 第17回国際リウマチシンポジウムプログラム・抄録集 407.

#### 地方規模の学会

- 1 °青木洋介, 福岡麻美, 永田正喜, 長澤浩平: 過去に治療歴を有し三日熱マラリアとの鑑別が困難であった熱帯熱マラリア感染症の一例. 第78回日本感染症学会西日本地方会学術集会. 2008, 12, 5-6. 第78回日本感染症学会西日本地方会学術集会講演抄録集 122.
- 2 藤巻光啓, 末松梨絵, 多田芳史, 三田村未央, 井上久子, 小荒田秀一, 大田明英, 長澤浩平: 膿疱性乾癬と胸膜炎をおこした関節リウマチの一例. 第35回九州リウマチ学会. 2008, 3, 15-16. 第35回九州リウマチ学会プログラム抄録集 67.
- 3 井上久子, 末松梨絵, 三田村未央, 小荒田秀一, 多田芳史, 大田明英, 長澤浩平: 抗セントロメア抗体陽性シェーグレン症候群についての検討~抗 SS-A 抗体陽性群と陰性群との比較. 第36回九州リウマチ学会. 2008, 9, 6-7. 第36回九州リウマチ学会プログラム抄録集 44.
- 4 小荒田秀一, 多田芳史, 末松梨絵, 三田村未央, 井上久子, 大田明英, 長澤浩平: 関節リウマチにおける生物製剤治療前の in vitro サイトカイン解析と抗 TNF $\alpha$  製剤の有効性との関連に関する検討. 第36回九州リウマチ学会. 2008, 9, 6-7. 第36回九州リウマチ学会プログラム抄録集 40.
- 5 °曲淵裕樹, 福岡麻美, 草場耕二, 永田正喜, 青木洋介, 永沢善三, 長澤浩平: 健常人に発症した *Lactococcus garvieae* による感染性心内膜炎の1例. 第78回日本感染症学会西日本地方会学術集会. 2008, 12, 5-6. 第78回日本感染症学会西日本地方会学術集会講演抄録集 107.
- 6 三田村未央, 末松梨絵, 井上久子, 小荒田秀一, 多田芳史, 大田明英, 長澤浩平, 鐘江 大: 成人スチル病 (AOSD) 34例の治療についての検討: 特に免疫抑制剤の有効性について. 第35回九州リウマチ学会. 2008, 3, 15-16. 第35回九州リウマチ学会プログラム抄録集 49.

- 7 赫紗耶歌, 末松梨絵, 三田村未央, 井上久子, 小荒田秀一, 多田芳史, 大田明英, 長澤浩平: 左化膿性仙腸関節炎を起した関節リウマチの一例. 第35回九州リウマチ学会. 2008, 3, 15-16. 第35回九州リウマチ学会プログラム抄録集 68.
- 8 戸田知子, 三田村未央, 末松梨絵, 井上久子, 小荒田秀一, 多田芳史, 長澤浩平: サルコイドーシス診断3年後に *Mycobacterium nonchromogenicum* の皮膚感染症と判明した1例. 第78回日本感染症学会西日本地方会学術集会. 2008, 12, 5-6. 第78回日本感染症学会西日本地方会学術集会プログラム集 127.
- 9 浦田千紗子, 井上久子, 井上奈央子, 末松梨絵, 三田村未央, 小荒田秀一, 多田芳史, 大田明英, 長澤浩平: 脾梗塞を併発した抗リン脂質抗体症候群合併全身性エリテマトーデスの一例. 第36回九州リウマチ学会. 2008, 9, 6-7. 第36回九州リウマチ学会プログラム抄録集 44.

#### その他の学会

- 1 松浦江美, 大田明英, 末松梨絵, 三田村未央, 井上久子, 小荒田秀一, 多田芳史, 長澤浩平: 強皮症患者におけるストレス適応についての基礎的研究 (第1報). 厚生労働省「強皮症における病因解明と根治的治療法の開発研究班」第11回強皮症研究会議. 2008, 1, 19. 厚生労働省「強皮症における病因解明と根治的治療法の開発」研究班2007年度班会議・第11回強皮症研究会議合同会議プログラム集 15.
- 2 長澤浩平, 多田芳史, 小荒田秀一, 堀内孝彦, 末松栄一: ワルファリンとスタチンによるステロイド性大腿骨頭壊死症の予防研究. 厚生労働省「特発性大腿骨頭壊死症調査研究班」平成20年度班会議研究成果報告会. 2008, 10, 4. 厚生労働省 特発性大腿骨頭壊死症調査研究班 平成20年度班会議研究成果報告会プログラム抄録集 6.
- 3 末松梨絵: 紹介患者2例の報告. 関節リウマチ治療 連携の会. 2008, 11, 21.
- 4 多田芳史: 当科におけるエタネルセプト使用経験とガイドラインに基づく安全管理. リウマチ治療 連携の会. 2008, 5, 30.
- 5 多田芳史: 膠原病・リウマチ患者においてガレノキサシンが奏功した呼吸器感染症の検討. ジェニナック発売1周年記念講演会. 2008, 10, 17.
- 6 多田芳史: 佐賀大学における病診連携における生物学的製剤治療導入. 関節リウマチ治療 連携の会. 2008, 11, 21.
- 7 多田芳史, 小荒田秀一, 大田明英, 三田村未央, 井上久子, 末松梨絵, 長澤浩平: レイノー症状を有する膠原病患者における5-HT<sub>2A</sub>受容体拮抗剤の効果—症状および血小板由来マイクロパーティクルに関する検討—. 第4回佐賀循環障害研究会. 2008, 3, 18.
- 8 多田芳史, 小荒田秀一, 三田村未央, 井上久子, 末松梨絵, 長澤浩平, 大田明英: 膠原病のレイノー現象に対する5-HT<sub>2A</sub>受容体拮抗薬の効果. 平成19年度セロトニン(5-HT<sub>2</sub>)研究会報告. 2008, 3, 1. 平成19年度セロトニン(5-HT<sub>2</sub>)研究会報告書 52.

## 研究助成等

職名	氏名	補助金(研究助成)等の名称	種目	研究課題等	交付金額 (千円)
助教	小荒田秀一	平成20年度科学研究費補助金	基盤研究(C)	自己免疫疾患における自己抗体産生 RP105 陰性 B 細胞を標的とした治療法の開発。	1,690
教授	長澤 浩平	平成20年度厚生労働科学研究費	骨・関節系研究班大腿骨頭壊死症調査研究分科会	特発性大腿骨頭壊死症の予防と治療の標準化。	800
教授	長澤 浩平	平成20年度民間との共同研究		自己免疫疾患患者由来 RP105 陰性 B 細胞の膜上に特異的に発現する分子の同定と当該細胞の自己免疫疾患における役割に関する研究。	1,950